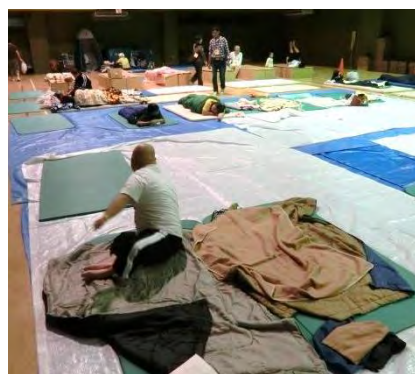


# 第7回さくらピア避難所体験

平成27年9月19日(土) ~ 20日(日)

## 実施報告書



①講演・避難訓練	…	123名
②防災レクリエーション	…	112名
③宿泊体験・非常食試食	…	71名
④まとめと講評	…	55名
計		<u>361名</u>

# 避難所体験報告書 は

さくらピアホームページからも

ご覧いただけます。(カラー版)

URL

<http://hosyoren.jp/sakurapia/>



**さくらピア** (豊橋市障害者福祉会館)



〒440-0812 豊橋市東新町15番地

TEL : (0532) 53-3153 FAX : (0532) 53-3200

E-mail : sakurapia@hosyoren.jp HP : <http://hosyoren.jp/sakurapia/>

開館 : 午前9時~午後9時 休館 : 月曜日、祝日 (月曜日が祝日の場合は翌日)

## ◆スケジュール◆

19日（土）

①講演・避難訓練 @3階大会議室

13:00 受付開始

防災グッズ紹介、ダンボールベッド（～15:30）

13:30 開会式

13:40 ラジオドラマの中の気持ちをきいてみよう

①知的障害のケース

②視覚障害のケース

③身体障害のケース

④ ラジオドラマに登場しなかった、その他の障害について

⑤聴覚障害のケースと防災手話

??:?? 避難訓練

15:30 終了

②防災レクリエーションで楽しく遊ぼう @体育館

17:30 受付

18:00 防災レクリエーション

協力：レディースレクわたぼうし

18:30 新聞紙スリッパ作り

協力：折り紙クラブ「花菖蒲」

19:00 大災害その時役立つ知恵袋

協力：豊橋防災VCの会

20:00 解散・各自夜食

③宿泊体験・非常食試食 @1階体育館

20:30 受付、夜食配布

21:00 宿泊準備

22:00 消灯

20日（日）

7:00 健康チェック

7:30 非常食試食（2階図書談話室）

8:30 後片付け・清掃

④まとめの話 @3階大会議室

8:45 受付

9:00 まとめの話

10:30 解散

## ■参加者内訳■

障 害 種 別		19日			20日	合 計
		①おはなし・避難訓練	②防 災 し く	③宿 泊 体 験	④まとめ と講評	
障 害 者 ・ 家 族 ( 当 事 者 )	身 体	17	8	4	3	32
	重 心	1	4	4	0	9
	うち中学生以下	0	4	4	0	8
	内 部	0	1	0	0	1
	聴 覚	7	11	3	4	25
	視 覚	5	0	0	1	6
	精 神	4	2	4	1	11
	うち中学生以下	0	1	1	0	2
	知 的	3	5	4	3	15
	うち中学生以下	0	1	1	0	2
	発 達	0	0	0	0	0
	家 族	13	16	17	6	52
	うち中学生以下	0	6	6	0	12
	<b>小 計</b>	<b>50</b>	<b>47</b>	<b>36</b>	<b>18</b>	<b>151</b>
うち中学生以下	0	12	12	0	24	
一 般	介 助	3	0	0	0	3
	ボ ラ	20	27	9	9	65
	大学生・高校生	7	8	4	8	27
	看護師	0	0	1	1	2
	議 員	0	0	1	1	2
	民 生	0	0	1	0	1
	社 協	1	0	0	1	2
	市職員	7	5	1(神戸市)	4	17
	その他	27	19	13	10	69
	うち中学生以下	3	4	4	4	15
	さくらピア	8	6	5	3	22
	<b>小 計</b>	<b>73</b>	<b>65</b>	<b>35</b>	<b>37</b>	<b>210</b>
うち中学生以下	3	4	4	4	15	
<b>合 計</b>	<b>123</b>	<b>112</b>	<b>71</b>	<b>55</b>	<b>361</b>	
うち中学生以下	3	16	16	4	39	

参加総数は361名（前年：348名）で、うち障害当事者は99名（前：107名）、障害者家族は52名（前：38名）、一般参加者は210名（前：203名）だった。障害者家族が増加したが、障害当事者は、特に高齢障害者が今回はシルバーウィークや敬老会の日程の影響もあり減少した。一般参加者は微増であったが、県外（静岡県・兵庫県）、市外（豊川市・蒲郡市・岡崎市・名古屋市）からの参加が増加している。特筆すべきは近隣の大学生・高校生の参加があり、積極的に避難所体験の設営に関わっていただいたことである。実際の避難所開設時でも主戦力としての活躍が期待される。中学生以下の参加は障害児・兄弟児含めのべ39名を数え、初めて重度心身障害児4人を含む4家族計16名が参加し、「家族で参加できる楽しさ」が感想に寄せられたのも印象に残る。

内容別には、夜間の部から通しでの参加が増え、②防災レクリエーション112名（前年はラジオドラマ：61名）、③宿泊体験71名（前：54名）および④まとめと講評55名（前：37名）の全てで増加した。②防災レクリエーションは誰でも楽しみながら防災意識の向上に役立つ内容であったため、子どもも大人も和気あいあいと参加している姿が印象的であった。

また数字には見えてこないが、まとめと講評の報告にあるとおり、防災意識を高く持って参加した人が多く、当日の運営に協力してくれたことは大きな進歩である。

今後は家族連れや学生の参加も視野に、障害の有無や年齢を問わずに楽しめる、レクリエーション的要素も含めた魅力的な企画を実施するなど、新規参加者や協力者の掘り起こしを図るとともに、要援護者防災の活動を広く周知する広報活動を強化したい。



## 第一部 ◎「防災ラジオドラマに込められた思いをきいてみよう」◎

平成27年9月19日 13:30～

それぞれの作品を聞いたあと、作品作りに関わった人から意見を聞きました。

豊橋市障害者福祉会館さくらピア  
平成26年度「さくらピア避難所体験」企画

### 祝

独立行政法人防災科学技術研究所主催 第5回防災コンテスト

## 防災ラジオドラマコンテスト 脚本部門最優秀賞受賞

※表彰式は、  
第3回国連防災世界会議(平成27年3月14日(土)～18日(水))  
会場別パブリック・フォーラムの一環として開催

日時: 3月14日(土) 10:00～  
会場: TKP ガーデンシティ仙台勾当台

作品原稿

### 「障がい者が避難所にきたら」



### ①身体障害者編

本田 身体障害のチームの作品です。会場に何人か見えていますね。「避難所の中で何か自分にできることはないか見つけてみよう。」で終わっていますが、その後はどうなったでしょうかね。

池田 一年ぶりに聞いた。今日ははじめて泊ります。

本田 ボランティアの野口さんはどうですか？避難所はどこですか？

野口 私は新川です。ジャンボ公園に行くことになっています。

本田 「ボランティアをしているので助けます」と言ってもらえると心強いです。避難所体験の申込書に校区を記入する項目がありますが、同じ地域でないと分からないこともたくさんあります。どんなことが得意なボランティアがいるか、どんなボランティアが必要とされているか、分かるといいですね。

## ②知的障害者編

本田 分かりやすい展開ですね。知的障害者がテーマですが。

鈴木 「手をつなぐ育成会」といって、知的障害の団体です。避難所に来た時にどうなるか、知ってもらえたらいいのですが…。

本田 「部屋がもらえたら」と言ったところは何？

鈴木 避難所では、広いところで皆さんが不自由や不安を感じていますが、特に知的障害者は環境の変化に弱く、大声を出したり、走り回ったりしてしまいます。違う部屋が用意してもらえるとだいぶ落ち着けるんですね。

本田 避難所マニュアルでは、障害者の別室についてはどうなっていますか？

鈴木 基本的には、体育館以外の別室も使っていただく事になっています。

本田 話の中に「会長が来ていない」という言葉がありましたね。避難所の係が必ずしも来ていないことがあります。孫の話もありましたが、会場の方で孫のいる人は？（手が拳がる）孫も大事だし、みんなともうまくやりたいですね。どうしたらいいか考えましょう。

荒木 同じく育成会です。隣に息子（ダウン症）がいます。息子は地震や大雨などの状況判断が難しく、訳が分からず、不安を抱えてパニックになります。パニックになった知的障害者の様子には、みなさん驚かれると思います。一人になって落ち着けることは、他の人たちにとってもいいことですから、対策を考えていただきたいです。

本田 蒲郡市の避難所マニュアルには、福祉スペースを設けてみると書いてあります。小さいお子さんをお持ちの方はどう思いますか？

平野 まだ想像できていません。今日の訓練のように1泊2日ならやり過ごせると思いますが、実際は計り知れません。自分以外のことにも余裕を持てるように、今後も考え続けていきたいと思っています。



### ③視覚障害者編

本田 このお話は、小学生が「僕が手を引きます」と手を上げる、ラストシーンがいいですね。これを作ったグループにいた視覚障害の柘植さん、せっかくだから視覚障害者テニス「鈴RUN」の紹介をしてください。

柘植 鈴RUNでは、鈴入りの音の鳴るボールを使ってテニスをしています。月2回、15年ほどやっています。興味を持っていただけると嬉しいです。ボランティアも募集中です。

本田 ところで、視覚障害者のかたが自販機でジュースを買っている様子を事務所から見ると、目が見えないとは思えません。よく慣れていますね。

柘植 配置図が頭に入ると大丈夫です。さくらピアは、点字ブロックが充実しているし、通路も広いです。逆に、何がどこにあるか分からないところだと、一から十まで人に頼らなければなりません。緊急の時は他の人のことまで手が回らない中、そこをお願いして、避難所にたどり着くのが大変なんです。近所の人に助けてもらうしかありませんが、たどり着いた後も、どなたかに誘導してもらいたいです。ボランティアやスタッフの方がいるといいです。それと、避難所での案内は、掲示板だけでなくアナウンスも併用してほしいです。私は八町に住んでいますが、一番近い避難所は八町福祉センターかな。前もって建物の中を見学したいと思いますが、パソコンなどでHPを見ることもできるので、下調べも必要ですね。

本田 事前に八町の福祉センターや、校区市民館を見学できるといいですね。町内では視覚障害者は柘植さんだけですか？それと、視覚障害でも白杖ついてない人もいます。弱視の方もいらっしゃいますね。

鈴木 私は弱視です。見えてはいますが、避難所では人の顔が分からないので不安です。耳は聞こえるので聞けばいいんですが、目が見えない人がいることも知ってほしいです。声をかけてくれれば、声で覚えていますので。

本田 挨拶の時、名前も一緒に言うと声を覚えてくれますね。





#### ④車いすの身体障害者編

本田 私ははじめ、避難所で「車いすの人がトイレが使えない、困った」という展開を予想したんですが、「避難所に行けないから家にいる」、「様子を見に行こう」という展開になっていたのが新しい発見でした。重度心身障害者の場合、避難所に行けないのが現状ですね。さくらピアの近くの八町市民館は、洋式トイレはありますが車いす用はありません。藤ノ花高校にはありますが、小学校にはありません。以前車いすの方が、トイレに時間がかかるのでみんなに迷惑をかけてしまう、避難所への移動手段がないと大変だと言っていました。このグループにいた方は会場にいますか？

神藤 はい、参加しました。車いす方は避難が難しく、自宅に留まると聞いてびっくりしました。車いすだと地域の体育館は入りにくいと思います。使えるトイレがないなど、難しいと感じました。

本田 「自宅にいる人を見に行きましょう」はどなたの発案でしたか？

神藤 なんとなくです。「その人が来られないなら、こちらから行きましょう」となりました。近所の人知っている家だから、という設定です。それと、地震が起きた後で危険なので、一人でなく誰かと複数で行きましょうという話になりました。

本田 見に来てくれるという発想が安心ですね。それもふたりに行動する。感心しました。車いすのご家族をお持ちの石原さん、どうですか？

石原 避難所には、車いす用のトイレがあると過しやすいと思います。校区は羽根井です。市に要望して市民館にはエレベーターが付き、良くなりました。みんなが声を出さないと変わりません。駅でも気持ち良く手を貸してもらえるようになりました。

山本 私はつつじが丘に住んでいます。段差がいっぱいあって、選挙もなかなかできない。仕方がないからわざわざ市役所で投票しています。車いす利用者にとっては不便です。



本田 精神障害者の場合は… 精神障害の方からのご意見です。大きな音や声、人ごみが苦手で、避難所にはられません。いざという時には、自宅や車の中で生活するしかないと思っています。普段から給油は早めにして、災害の時はすぐに冷暖房や電源として使えるように心がけています。停電に備え、自宅にはランタンやキャンドル、懐中電灯を複数準備しています。また、ガスが止まった時に備えて、アルコールバーナーやファイヤースターター、キャンプ用のコンパクトな調理器具もあります。それと、心配性なので、薬を1週間分余計に手元に置いています。パニック発作の時は、薬がないと一番困るので、居間や、自室に保管しています。外出時には、カバンの中とポケットの小銭入れの中に数回分を持っていきます。

作業所の仲間に聞いてみたら、時に備えていない人が多いようです。テレビで多く取り上げられて、以前より精神障害について理解は広がってきたと思いますが、災害がおきた時、「自分は精神障害です」とは言えません。犯罪予備軍など偏見が根深いからです。災害後、普通の生活に悪影響がでないかも心配です。国民の20人に1人は何かしら障害を抱えていると言われており、心に問題を抱えている人もたくさんいると思います。

福田 発達障害者の場合は… 発達障害者の親で、さくらピアのピアカウンセラーです。発達障害という言葉は、最近聞かれるようになってきましたが、まだまだ正しく理解してもらっていないと思います。発達障害といってもいろいろなタイプがあって、知的障害を伴う自閉症や、伴わない人、賢い人もたくさんいますが、被災した場合、周りの人に気づいてもらいにくいです。普通に暮らせてはいますが、本人たちは困難性を持っていて、それを訴えられる人と訴えられない人がいます。ここがややこしく、分かりにくいところです。

先ほど出た学習障害は、賢くて、言われたことは分かっても、字は書けなかったり読めなかったりします。ADHDは多動、うろうろしたり興味が変わったりしてうるさい人と言われたりします。また、アスペルガーや高機能自閉症は、新しい場所にいられなくてフリーズしてしまう（行動できなくなってしまう）人もいて、用事があったのに、用件を言えなくなったりします。字は書けるが読めなかったり、文字より放送（音声）の方が分かる人もいます。



瀬戸 内部障害者の場合は… 相談室担当の職員です。ピアカウンセラーには障害当事者の方がいますが、その中から内部障害について。内部障害というと心臓・腎臓・呼吸器・膀胱など内臓に障害をかかえることをいいます。腎臓に障害を抱えた方で人工透析している人について。人工透析を知っている人、たくさんいますね。普通の人はおしっことして水分や毒素を排出していますが、その機能がなくなってしまうので、機械を使って血をきれいにする、水分を出す人工透析という治療です。この治療には、大量の水や電気を必要とします。災害時にライフラインが止まってしまうと、そこでは治療ができなくなってしまいます。

避難所で生活をするというよりも、そのエリアを出て治療ができる場所に移ることが最優先されます。東日本大震災の時、透析を受けている人が避難所にたどり着くが、あまりにひどい状況で自分が透析患者だと言い出せずに、早い時期に治療が受けられなかったと聞ききます。これは透析患者だけでなく、どの障害の方も同じで、自分に必要な治療や薬などを訴えることが大切です。また、薬の情報や透析情報などを紙で持つておくことも大切です。みなさんは携帯電話を持っていると思いますが、お薬手帳を写真に撮っておくいいと聞きました。他の障害でも活用できるアイデアだと思います。

本田 CD化された5つのお話と、様々な障害について話しあいました。ラジオドラマは全部で7つで、残りの2つは聴覚障害がテーマです。避難所には手話通訳がないことや、筆談が登場して音声にできなかったのが、今後はマンガ化して教材にしようと考えています。今日は会場に聞こえない人がたくさん来ているので、避難所でも使えそうな簡単な手話をみなさんに教えていただきます。

## 簡単な手話や分かりやすい身ぶりを覚えよう！



講師： 浅倉君枝 浅倉基雄 柴田浩代 木村鈴子 内藤達矢 高橋寿

家	町	学校	場所	どこ？	雨	台風	逃げる
一緒	おいで	トイレ	携帯	書く	紙	ペン	水
電気	お願い	手話	分かる	分からない		食べ物	



## ▼第二部 防災レクリエーションで楽しく学ぼう▼

平成27年9月19日 18:00～

### ★防災レクリエーション★ 協力：レディースレクわたぼうし



グループに分かれて、全身じゃんけんで「防災グッズ・カード」を集めます。6種類全て集めたチームの勝ち！カードに載っているものは、災害時の必需品です。負けたチームも、足りないカードは何なのか、考えてみました。参加者同士、和気あいあいとゲームを進めることができました。

視覚・聴覚障害者のために合図に旗や鈴を使って、工夫して進めました。



### ★新聞紙でスリッパを★

協力：折り紙クラブ「花菖蒲」

新聞紙でスリッパ作りを体験しました。創意工夫をして身近な材料を役立てましょう。



# ★大災害！その時役立つ知恵袋★

豊橋防災ボランティアコーディネーターの会 尾崎公枝



## 命を守る5点セット

マスク ・ タオル



ライト（笛付き） ・ 軍手 ・ 靴



## <お車セット（帰宅困難対応）>

帽子 運動靴 食べ物  
クスリ ライト など



## <スツール>

大きな缶をキルティングで包んで背負えるように制作。腰掛、簡易トイレ、非常食入れ、貴重品入れ、コンロ替わりなど、使い道多数！



## <クッション>

毛布を入れておいて、普段はクッションとして使用します。背負って避難することもできます。





## ＜防災ベスト＞

100均を上手に活用しています！

後ろポケット：シート 毛布

横 ポケット：下着 レインコート マスク

胸 ポケット：ホイッスルライト付き

ティッシュ 帽子 ナイフ

タオル 食料 水

内 ポケット：お金小銭 薬 年金手帳

防災カード 筆記用具 化粧品

## ＜大きなポケット付き＞

トレーナーの袖を切って、前に貴重品を入れるポケットを付けました。避難所で貴重品を持ち歩くことができます。



## ＜布担架＞

古ジーンズを担架の材料にしました。



## ＜防災頭巾＞

← 2枚の座布団をあわせて  
身体を覆う毛布付き →



## ◆第四部 まとめの話（議事録）◆

平成27年9月20日（日）9：00～

本田

まとめの話をはじめます。

豊障連会長 山下のあいさつ

私は昨日、小学校の同窓会に出席したんですが、新聞報道で豊障連の行事が紹介されるときに「会長 山下徹」と載せていただいているので、同級生からも避難所体験の開催について声を掛けられ、「少しずつみんなに知ってもらっているな」と実感できました。今日の参加者も障害のある方ない方、家族などいろいろな方が集まっています。宿泊型の体験はなかなか無いので、いいチャンスだったと思います。今日の朝刊も「繰り返し繰り返し」という言葉や、「みなさん協力しあって」という言葉がありました。慣れてくると「何か手伝いましょうか？」という言葉がでできます。また重度心身障害児の方が夜、体調を崩して入院しましたが、体育館のせいではなく気候変化が原因ということでした。実際にも起こりうることだと思います。その時どうするか、貴重な体験ができました。



講評者紹介

豊橋市福祉部福祉政策課主幹 鈴木登

避難所体験には3回参加しています。繰り返すことによって気づくことがあると思います。昨日も「校区はどこか」という話が出ていましたが、皆さんがまず行くのは自分の家の近くの校区の避難所です。その時、この経験が役立つと思います。



豊橋市福祉部障害福祉課長 大野忠司

避難所体験での実践が大事だと思いました。また、自分の校区、地形はどうかな、避難所まで行けるかな、そして自分の住んでいるところはどうか？というように、避難所までの経路を確認がてらに散歩するのもいいと思います。



豊橋市社会福祉協議会事務局長 松井晴男

みなさんの声をききながら一緒に勉強していきたいと思えます。私が講評に呼ばれる理由は、災害ボランティアセンター立ち上げをしなければいけないセクションになっていることと、福祉サービスを提供している団体であるということ、それを視点においてみなさんの話をお聞きします。



## 「要支援者受入協定締結施設」って？

はじめての方の意見

原田（豊橋ちぎり寮）

初参加です。ちぎり寮も福祉避難所になっているのでいろんな人が来ることが予想されます。自分の事業所も、名簿やマニュアル作りを考えていかなければならないと思いました。体育館では、子どもが元気に走り回っていたのが印象的です。食事もこれしかなければおいしいと思って食べられます。来年もぜひ参加したいです。もっと若い職員もたくさん参加するよう、上司に報告したいと思います。



本田

ちぎり寮は福祉避難所ではなくて、災害時の要支援者受入協定締結施設になったんですね。知らない方もいるので担当課の福祉政策課から説明していただきます。



鈴木登（豊橋市福祉部福祉政策課）

はい、今福祉避難所と言われましたが、正確には福祉避難所は市の施設で、さくらピア、あイトピアを含めて老人福祉センター等の10か所になります。今年くすのき特別支援学校も福祉避難所に指定されました。プラス民間の施設と受入協定を結び、23年度、25年度と順次増えていき、今31施設と協定を結んでいます。老人ホームや「ふくふく」や「ら・ばるか」などと結んでいます。老人ホームや「ふくふく」や「ら・ばるか」などと結んでいます。老人ホームや「ふくふく」や「ら・ばるか」などと結んでいます。



本田

3年ぐらい前に7か所ぐらいと協定を結んで、その後どうなったのかなと思っていたら、31か所に増えたんですね。そのことを会場の方はご存知でしたか？知らなかった人？（多数手があがる）私は別件で偶然知りましたが、知らない人が多いですね。



鈴木 豊橋市のHPにでています。

本田

でも、ほとんどの方が知らないのが現実なので、協定を結んだことを公にして知っていただくことで、防災対策への意識も高まると思います。



田中（神戸市保健福祉局）

さくらピアの取り組みが先進的ということで去年から（神戸市職員が）参加しています。着いた時からみなさんにいろいろ教えていただき、不自由なく体験に参加することができました。

昨夜体育館に泊まって何度か目が覚めたが、スペースにもゆとりがあり、飲料水もいただきました。実際にはもっと辛いし、寝苦しいし、夜中にどんどん救援物資が届いたりして落ち着いていられないと思います。それでも、隙間時間にクッと寝るということが、長い避難生活を健康に過ごすことになると思いますので、「寝れなかったわ」ではなく「ちょっと寝れたわ」という気持ちで、少しずつ休息をとって体力をつけていただくことが大事かなと思います。みなさん秩序正しく参加されていて、感心しました。

本田

「隙間時間にクッと休息」！神戸の方ならではのお話ですね。参考になります。



阪神淡路大震災から  
20年たちました

小畑（沼津市手話関係者）

訓練というと図上の訓練が多く、障害者と一緒という経験はあまり無いと思いますが、今回実体験できるというので参加しました。

体育館では今日はスペースに余裕がありましたが、「近くに人がいたら不安定になっちゃう」というような人がいたら、どう別室が用意できるのか、何ができるのか、地域に持ち帰って考えたいと思います。

防災グッズを手作りする体験は魅力的でしたし、意識も高まると思います。ゲームも、障害者と地域の人が自然に交流する手立てとして有効だと思いました。私の市では全部の障害者と地域の人を結ぶ活動が中々ないので、それができるといいなと思います。その辺りで、できることからやりたいなと思います。

本田

今年は「3.11の集い」で防災頭巾をつくりました。とても好評で、その後もいろいろな団体が作っていただいています。



図上の訓練  
より実体験が  
分かりやすい



## お互いの違いを分かりあおう

杉浦（豊川市）

豊川共生ネット未来からきました。障害者の方と一緒に体験ができたのがよかったです。例えば、この場に手話通訳者がいたり、昨夜のゲームの合図に旗をふったり、鈴がついていたり合図に工夫がされていて、お互いの違いが分かり合えたことがとてもよかったです。



本田

そうですね。レクのわたぼうしさんが聴覚障害者のために旗を、視覚障害者のために鈴をつけるという工夫をしてくれました。杉浦さんは、さくらピアの窓ガラスに貼った看板を見て参加を決めてくださったそうで、書いた本人としてはとても嬉しかったです。ありがとうございました。



鈴木智（豊橋市肢体不自由児(者)父母の会）

父母の会の鈴木です。初めての参加でしたが、宿泊の時間だけだったので準備万端で、問題ありませんでした。でも、本当なら認知症の方や高齢者などいろいろな方が集まってくるので、昨日のような平和な夜じゃないだろうなと思いました。朝食の準備もしっかりできていました。また来年も期待してします。



本田

肢体不自由児父母の会は 夏にキャンプで私が避難所体験のことを報告させていただきました。その後のみなさんの反応はどうでしたか？

鈴木智

そうですね。夏の療育キャンプで本田さんに講演していただき、「ハートのナップサックに何をいれたらいいか」ということをみんなで話し合いました。その時、この避難所体験のお誘いをしたので、今回は父母の会からの参加が多かったようです。

本田

ありがとうございます。バギーにのった重度障害のお子さんをつれたご家族がたくさん参加してくれました。



中神(豊橋市肢体不自由児(者)父母の会会長)

父母の会から31名が参加しました。宿泊には4家族が障害児と兄弟を含めて参加しました。会員の感想は、「私たちの家族が避難所に行ってもいいのかな、と感じた」ということでした。泣いたり、発作があったり、寝付けなくて1時2時までぐずっていたようです。

一般の健常者の中で、私たちの家族がいられるだろうかと考えると、「一次避難所に届け出れば救援物資がもらえるということなので、家にいた方がいいのかなと考えてしまった」ということでした。車いすの子どもたちが災害時にどうなるか?参加することでいろいろな気づきがあったということです。

本田

夜のゲームから参加した方々は、重度心身障害者のご家族の様子も一緒に見ていただいたと思います。朝食の際には持参したマイスプーンを使っていましたが、大切なことだと思います。ラジオドラマのCDの中では、(車いすの)近藤さん一家が来てないから見にいってみようという展開でしたが、その後どうなったのか考えていただけるといいですね。



車いすの人も  
忘れないで!



西郷(豊橋市手話通訳学習者の会)

毎回参加したかったんですが、今回が初めてです。勉強になったのは防災グッズ紹介です。オイル缶や猫砂のこと、ベストもよかったです。私は裁縫が苦手なので、安全ピンでとめて作ろうと思いました。

本田

私も裁縫は苦手ですが、裁縫が得意な友達をつくるという手もありますね。



問川(日本福祉大学学生)

被災者のことを学んで体験したいなと思っていたところ友人の誘いがあって参加しました。神戸の震災のときボランティアに行ったが、仮設トイレで毛布も取りあいでした。あの時と比べると今回はいろいろな準備が整っているなと思いました。



平野明子（西高師町）

20時間という中で、これ以上長くご機嫌ではいられないなと思いました。子どもは余裕がなくなるだろうという事を踏まえて、自分がどれだけ日ごろの準備で気持ちや体に余裕を備えておけるか、考えていきたいです。

実家は大分県ですが、3年前の豪雨災害で、両親は避難所生活を送りました。その後、町は区画整理をして元の場所は道路になり、今は近い場所に中古住宅を買って暮らしています。眼下にお隣さんが見えるので、雨が増えるとドキドキしていると思います。

その時は子どもが生まれたばかりの時だったので、細かい話を両親から聞かずにきてしまいました。これを機会に今度会ったときに話をきいて、自分も備えたいと思いました。

本田

昨日も津田校区の障害児を持ったお母さんが、「子どもを抱きかかえてたくさんの荷物は持てない」とおっしゃっていました。

平野雅（会社員）

自分は仕事があるから避難所には行けないだろうけど、奥さんと子どもがどういう状況になるかなという視点で参加しました。自分はけっこうフル装備で来てしまいましたが、実際はこんなに荷物を持ってくる暇はないだろう、グッズも紹介されたが持ってくるのができないんじゃないかな、と思いながら一晩を明かしました。

朝起きた時は、ちょっと喉がいがらっぽかったです。この気候ですら大勢集まれば風邪を引く人もいるだろうし、体調を崩したり、同じ釜の飯を食べるので食中毒の心配もあります。集団での長期生活では、障害がなくても病気になれば生活は困難になっていくだろうと思いました。

また、今回の体験だと本田さんがいないと成り立たないだろうと思いました。自分がリーダーになったらどんな風に避難所を運営していけるか？この練習もやっていければいいなと思います。

本田

私自身は7年目に入ってどんどん自分の仕事を減らしています。1年目は食事の支度や名簿のチェックも自分が一生懸命しました。でもだんだん職員やボランティアやみなさんに仕事を割り振って自分はあまりしていないんです。荒木さんとも、手伝ってくれる人が気が利く人が増えてきたと話して喜んでいました。



本田

今、喉がいがらっぽいという話が出ましたが、毎年一緒に泊まってくれる看護師さんが今日はここまで同席してくれているので、お話を聞きたいと思います。

浅原

看護師の浅原です。今年来てみて、人数の多さにびっくりしました。今までは「何事もなく過ごせたのは単なるラッキーだな」と思っていたのですが、これだけ人数が多くなればいろんなことが起こる可能性も高くなるなと思いました。いつもより緊張して参加していました。

昨夜は発作を起こした子どもがいて、「病院に行った方がいいのかどうか」ということをお母様と相談して、最終的には病院に行き、様子を見るために入院されたということでした。そもそも、最初から避難所に医師や看護師はいるのか、という問題があります。医療に関する知識を持った人がいたとしても、それぞれに専門分野が違ったりします。私も子どものことはそんなに得意ではないですし、家族が障害を持った方の事をよくわかっているかどうかが大変だと思います。あと、持病の薬を飲んでいる人で、外から来た医師に「どんな薬を飲んでますか？」と聞かれて答えられない人は本当に多いです。ケータイに飲んでる薬や保険証を写真にとっておくのも役立つと思います。

体育館以外では、2階の和室に障害児さんご家族、トレーニング室には高齢の方が寝られました。

薬や保険証を  
ケータイに  
写真で保存して



土屋（愛知大学教員）

愛知大学の教員です。社会学コースの社会当事者実習として、災害に関心がある学生と参加しました。

防災ラジオドラマは今回初めて聞きましたが、すごく分かりやすく作られていて、これを使って勉強できるいい内容だと思いました。実際に昨年、避難所体験に参加した皆さんで作られたということですが、それぞれのグループが「普通の避難所に障害者が来たらどうなるだろう」とリアルに考えて作られた過程・プロセスが大切だと思っています。

実際に体育館に泊ってみるとすごくいろんな方がいたので、どうしても必要な方がダンボールベッドを使う・マットを使うというように、皆で避難所を運営していく姿勢が大事だと感じました。朝ごはんには食べ物の内容を貼り出してありましたが、「アレルギーで食べられない人もいる」ということを念頭に置いて行動しているところもすごく勉強になりました。

実は愛知大学も、避難所ではないが、避難所的な物になるだろうと言うことを想定しています。その時、「目の見えない方、耳の聞こえない方がいらしたら、大学がどういう対応ができるんだろう？」という話もしました。知っている知らないでは全く違うので、「いろんな人がいるんだ」ということを災害時にも意識して行動することが大事だと思いました。参加させていただいて本当に良かったです。

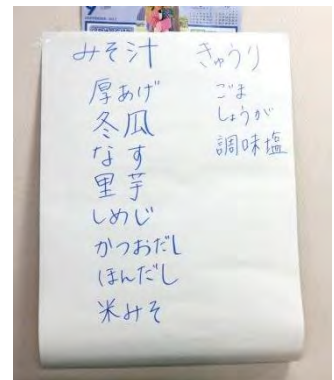
本田

アレルギーを持ったご家族は2家族申し込みがありましたが、残念ながら体調を崩されて不参加になりました。

お味噌汁の中身を書き出すことについては、以前に私は失敗しました。あるお母さんに言われて、夜にカレーの具材を書いていたのですが、朝には忙しくて忘れてしまいました。私が悪かったことは、忘れたことではなく、聞いたことを自分だけのものにして周りの人に伝えていなかったことです。いつも自分は忘れてしまうのだから他の人に伝えておけばよかった、頼めばよかった、そういう反省をしました。「誰かに何かを言われたよ」ということは、複数の人に伝えておくのが大事だと思っています。



避難所には  
いろいろな人が  
やってきます



山本（愛知大学学生）

宿泊体験はある程度準備してきましたが、翌日は疲れが残っています。実際の避難生活はもっと大変だろうと思いました。防災グッズはとても役立って、100均にあるものや家にあるものを活用できるので、備えておきたいなと思いました。

奥山（愛知大学学生）

宿泊体験では、最初はタオルケット一枚だけでいけるかなと思ったのですが、一時間ぐらいで目が覚めてしまって、座布団を引いても熟睡できませんでした。ダンボールベッドやマットがあると全然違いますし、今の気候ならまだいいですが、冬なら床も冷たくて大変だと思うので、展示されていたダンボールの間仕切りのようなものが避難所に備えてあればいいと思いました。

本田

今回は大学生や高校生にいろいろ働いていただきました。福祉避難所に障害者や高齢者だけが集まっても作業してくれる人が足りないので、避難所運営をどんなメンバーでまわしていくかを考えるヒントになりました。大学生や高校生、子どもと遊んでくれる高齢者にも来てほしいと、いろんなことを思いました。

野口（愛知大学学生）

この施設を利用したのは2回目で、以前に高校生のときボランティアで参加しました。その時は健常者の立場から障害者への対応を学ぶという関わりでしたが、大学の社会学の授業では、当事者の立場から見える景色を考えています。このさくらピアは、ハード面では障害者が使いやすい工夫が十二分にあるなと思いましたが、それと比較して自分の地元の公民館がどうかと考えると、全然整っていないと思いました。そういう場所で自分がどう手伝えるかなと思いました。お手伝いもベテランの方がいて、自分たちが手をだしてもいいかなというためらいもあったので、次回は積極的に手伝いたいと思いました。

古市（愛知大学学生）

一日がこんなに大変だとは思わなかった。知らないより知っていた方がいいと思いました。備蓄飲料水が受入人数の219人に対して全然足りていないということでしたが、僕は「避難所に行ったらあるだろう」なんて考えていたので、そうでないなら自分で備えておくことが大切だと思いました。



1泊2日の訓練  
疲れました…



本田

今のお話にあった水の話は、防災ガイドブックに載っているさくらピアの受入人数が219人なのに対して、飲料水が120本、アルファ米も120食しかないということですが、どういう算出基準なのか分かりません。社会福祉協議会も福祉避難所ですが、受入人数と備蓄品の整合性はあるんですか？



松井

できる範囲で集められているんだろうなと考えています。社協としては福祉サービスの事業部門で、災害が発生したときに個々の対象者を支援しなければならないので、独自に備蓄計画を作成しています。具体的には、それぞれの職員が7日間活動できる備蓄品+αを事業部門ごとに備蓄しています。デイサービスであれば、そこで7日間活動できるだけの食料等を確保することを昨年から準備していて、今年度中に整う予定です。事業所関係は行政頼みではなく、独自の対応が求められると思っています。



本田

さくらピアはどうなりますか？

大野

それぞれの施設で備蓄していただいておりますが、防災備蓄倉庫というものがあります。さくらピアからは幸公園にあるものが一番近いと思いますが、市内に10か所あるので3日間分の備蓄をしてそこから各避難所に配送するときいています。

本田

幸公園はここから遠いですよね？

会場

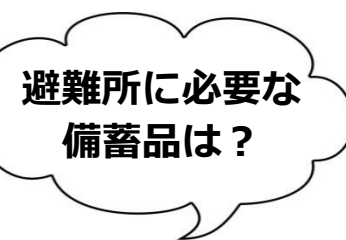
豊橋公園にもありますが、それは第1、第2避難所のためのものじゃないですか？

大野

第1、第2というのは関係なく、必要があれば防災備蓄倉庫から配送するときいています。

本田

さくらピアの地下室からはボイラーを撤去して空スペースがあるので、私は219人分は備蓄してほしいと思っています。





相川（豊橋市手話通訳学習者の会）

蒲郡から来ました。宿泊体験は初参加です。蒲郡の避難所には「福祉スペース」というものがあると聞きましたが、もっと自分の地元のことも知らなければと思いました。

地震がなくても、非常時には自主的に通訳をしたりすることも大事です。それから、愛通研や手話サークルで配られた防災パンダナには「手話ができます」とか「耳が聞こえません」と書いてあるのに、ここに持ってくるのを忘れてしまいました。普段の心構えがたりないなと反省ばかりでした。

本田

蒲郡に限らず、聞こえない人はパンダナを持っていると思いますが、こういう機会に持ってきて使ってみて、みんなに知っていただくことが理解につながると思います。

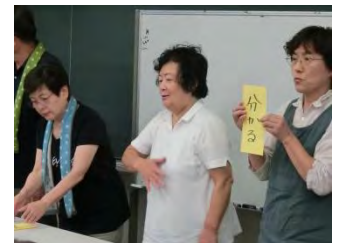
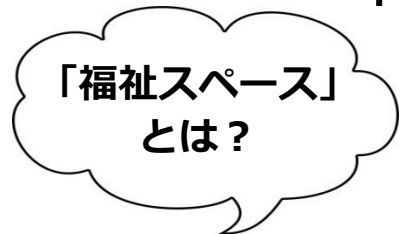
蒲郡市の福祉スペースのことは、私も各地の避難所マニュアルを調べて知ったことです。豊橋市でも第1、第2避難所で過ごせない人が福祉避難所に行くことになっていますが、それが誰の判断になるのかは知りません。2年3組の教室を福祉スペースにしますというような具体的な表現があったほうが、みんなに分かりやすいと思いますが、豊橋市はどうか？次回のマニュアル改訂の時に、検討していただけたらどうかと思いました。

鈴木登

避難所の福祉スペースに関しては、マニュアルには具体的にどこは記載していません。学校では「保健室、職員室、危険物のある理科室等の避難所生活に支障のある部屋については受け入れを避けることとし、支障のない特別教室等については要援護者（高齢者、障害者）の避難スペースにするなど、可能な範囲で使用する」とあり、校区によっては避難訓練の際の受入訓練で、該当の教室を想定して訓練をしていると聞いたことがあります。

本田

ありがとうございます。可能な限り使用すると書いてあると言う事ですね。誰が読んでも分かりやすい表記をするということもマニュアル作成上大事な事かと思います。



斎藤（小向町）

久しぶりに宿泊体験に参加しましたが、年をとったせいもあり、きついなと思いました。子どもの声や、頭の横を歩く人に過敏になってしまい目が覚めました。

今回の関東・東北豪雨でも、何日も災害が続いています。こういう状況で何がストレスになってしまうのか、自分の体験として実験しました。先ほどお話に出ていた「アレルギーの人のために食材を書いておく」ように、些細なことでも気がついたことを、福祉避難所だけでなく、一般の避難所を含めてどうフィードバックしていくのかが大きな課題となっていくと思います。このさくらピア避難所体験は、全国的にも大変優れた取り組みになっているので、広げていくという観点で工夫がいるようになっていくと思いました



7年間の  
積み重ねで  
改善されたことも

本田

初日に、危機管理監から「今後ラジオドラマを自主防災会などの研修に活用して、教材としていきたい」という力強いお言葉をいただきました。そもそも、CD化の話は豊橋市の方から声をかけていただきました。行政の方も「できる事があれば一緒にやります」という姿勢を持ってくださっているんだなということが、7年間の積み重ねで分かってきました。



私たち豊障連が7年前にさくらピアの指定管理を受けたときは、福祉避難所とは名ばかりで心細い状態でした。それが少しずつ変わってきているな、良くなってきているなという変化を報告書に書いています。

2015 さくらピア 避難所体験

9/19(土) 20(日)

①おはなし・避難訓練  
19日 13:30 ~ 15:30

②防災レクリエーション  
19日 18:00 ~ 20:00

③お泊まり体験  
19日 21:00 ~ 20日 8:30

④まとめと講評  
20日 9:00 ~ 10:30

部分参加OK! ①~④から選択

★さくらピア (豊橋市障害者福祉施設)★

〒440-0812 豊橋市東町1-5-10  
TEL: (053-22) 5151 5152 FAX: (053-22) 5153 5200  
E-mail: saku-pia@shimane-npo.org URL: http://shimane-npo.org/saku-pia  
開館: 午前9時~午後5時 休館: 月曜日、休日 (特別の場合約会を除く)



小川（豊橋身体障害者協会）

宿泊は2回目。たくさんの方が参加していてびっくりしました。窓の看板を見て参加してくれた人もいるということで、知らせることは大事だと思いました。先日は防災ラジオドラマの件でNHKからインタビューを受けましたが、しどろもどろで…。でも見てくれた人がたくさんいたそうです。



本田

小川さんがインタビューを受けたNHKの放送は9月7日の「ほっとイブニング」でしたが、まだご覧になっていない方はロビーのテレビで流していますので、ぜひご覧ください。

身体障害者協会

池田（豊橋身体障害者協会）

東田町から、今回初めて参加しました。何を持っていったらいいのかわからなくて、いろいろ迷いました。さくらピアにはいつも来ていて本田さんは知っている人だから「毛布ありますか？」と聞けましたが、自分の校区で知らない人に声が掛けられるかな？と思いました。また次も参加したいと思います。ありがとうございました。



本田

池田さんは毎週の卓球同好会と月2回の陶芸教室でさくらピアを利用してくださっています。



清水（豊橋身体障害者協会会長）

体調を崩して参加できなかった人もいますが、豊身協からは4人参加しました。私は毎年参加していますが、今年は宿泊体験の参加者が多かったです。でも体育館の中は静かで、私が無神経なものもあってぐっすり眠れました。特に困ったなと思うこともなかったですが、実際にはこんなに安気に寝れるとは思えません。さくらピアは至れり尽くせりで、快適すぎると思ったくらいです。



本田

清水さんは、自分の校区の避難所を見たことがありますか？

清水

地域の防災訓練には毎回参加しているので、見ています。トイレは洋式ですが、車いすでは使えません。市は「洋式なら車いすもOK」と思っているようですが、車いすの人も使えるトイレがある市民館は少ないと思います。

自分の校区はどうだろう？

浦野（豊橋市手をつなぐ育成会）

向山校区から来ました。はじめて体験に参加しました。私は以前、旅行中に震度5の地震に遭い怖かった思い出があります。昨夜は体育館で寝ましたが、地震は無かったのでよかったです。



荒木（豊橋市手をつなぐ育成会）

避難所体験には7回全部、ダウン症の息子とともに出ています。「息子さんはここで暮らせるよね」と言われましたし、実際暮らせそうです。でも、校区の第一避難所の吉田方校区市民館のことを息子は知りませんし、中に入ったこともありません。小学校の体育館にも入ったことがないので予測できません。私がそばで「大丈夫だよ」と言って安心させてあげることが大事なかと痛感しています。



初日の避難訓練で3階から非常階段を使って降りる時、息子は歩くのが遅いので、皆さん待っていてくれました。でも私のほうから「先に行ってください」と言った方がよかったかなと思いました。将棋倒しにならないように考えなければと思いました。



鈴木佐（豊橋市手をつなぐ育成会会長）

今回で6回目の参加です。育成会からの参加者が少ないので申し訳ないと思っています。「知的障害者が避難所に行ってもいいんだろうか？崩れそうでも家にいます、車にいます」と答える会員さんが多いです。避難所体験に誘ってみても「うちの子がいくと迷惑をかけるから」と言う人が多いです。たしかに、こういう場に来ると騒いだり走りまわったりしてしまうと思いますが、他の人にその姿を見てもらうことも大事なことだと思うので、「訓練なんだから、来てみてダメなら帰っていいんだよ」と誘っています。



ラジオドラマでは、「自分たちの子どもに配慮してほしい」ことだけを訴えてしまったんですが、実際には赤ちゃんや高齢者もいて、配慮が必要なのは障害者だけではないことを話し合いました。「助け合っていないと避難所生活はできない」、そんなことも育成会の会員にもっと伝えていかなければと思っています。



本田

そうですね。防災の研修会等でも「避難所に行く気がない人をどう誘うか」ということが話題になります。今年の避難所体験のチラシには、体育館で子どもが楽しそうにテントで寝ている写真があったので、それを見て「子供連れでもよさそうだな」と感じて申し込んでくれた人がいます。どうすればみんなが参加する気になってくれるのか私もみなさんと考えていきたいと思っています。



中谷（豊橋市聴覚障害者協会）

昨日の夜の企画に参加しました。その時、後ろから車いすの方が入って来たのですが、私は耳が聞こえないので分からず、肩を叩かれてからやっと気づいて、車いすの方を輪に入れてあげることができました。知恵袋の話が良かったです。いろいろ参考になりました。



内藤（豊橋市聴覚障害者協会）

避難所体験には 4、5 回参加しています。知恵袋の話には感心しました。新聞紙を使ったスリッパ作りもなるほどと思いました。今回は宿泊しませんでした。今回は参加してみたいと思います。

聴覚障害者協会

神谷（豊橋市聴覚障害者協会）

山田町の新幹線の路線近くに住んでいます。高台で川から離れた場所ですが、最近の全国各地の河川の氾濫やスーパー台風等のニュースを見ると心配だなと思いました。自分もLEDライトや持ち出し袋を少しでも準備しようと思いました。夜の防災グッズ紹介はいいアイデアがたくさんあって良かったです。



草場（豊橋精神障害者地域家族会くすのき会）

私たちは平成 5 年から活動していますが、13年に豊障連が発足して以降、様々な活動をして今に至っています。

以前は、精神障害者がイベントに参加することはほとんどありませんでした。その後、障害者自立支援法等ができて、様々なお誘いもあったので、今回の避難所体験には精神障害者はのべ 5 名参加しています。またこのさくらピアでは、精神障害当事者の会の方が勤務されていることもあって、他の方も参加しやすくなっているのかなと思います。また、昨日も紹介があったように、精神疾患を持っている方は服薬が必要で、医療機関と密接な関係を持っています。薬はいつも自分の身の回りにおいておくことと、携帯で自分の薬を写真にとっておくということは、私たちにとってとても有効な方法だと思いました。

精神障害者家族会



高校生 1（愛知産業大学三河高校放送部）

準備をたくさん手伝うことができましたが、大変だなと思いました。僕たち若者が積極的に手伝うことが大切だと思います。高齢者や障害者の方がたくさんいたので、少しは役に立てたかなと思います。

本田

初日の避難訓練の際にはイーバックチェアに乗ってもらいましたが、乗り心地はどうでしたか？



高校生 1

乗り心地は良かったですが、ガタついて怖かったです。

高校生 2

宿泊体験以外の全てに参加しました。朝ごはんにはいつもの食事と同じような温かいみそ汁がありましたが、災害時もそういう食べ物があるとちょっとはほっとできるのかなと思いました。

インタビューに快く協力してくださったみなさん、ありがとうございました。

高校生 3

新聞紙で作るスリッパはすごいなと思いました。身近な物が活用できていい勉強になりました。

森（愛知産業大学三河高校教員）

さくらピアさんとは、防災ラジオドラマの表彰式の時に知り合い、今回取材させていただきました。私たちの高校では過去3回作品を制作し、優秀賞をいただいています。

私たちの学校付近の地図を見ると、名古屋鉄道、高速道路、国道1号線が狭い範囲で並走しているので、「災害時に電車が止まったらどうするの？帰宅困難者はどうなるの？」という視点で作品を作っています。豊橋市では帰宅困難者の対策はどうなっているのかなと思いました。

本田

入賞目指して、いい作品を作ってください。

防災ラジオドラマ  
を作っています。  
次はビデオ  
コンテストに挑戦



榎澤（名古屋学院大学教員）

昨年は風の訓練しか参加できませんでしたが、今回は全部参加しました。防災グッズやタオルの話聞いたので、早速いただいたさくらピアタオルをベルトのところに付けました。

他の方もおっしゃっていましたが、炊き出しの具材を書き出して知らせるなどのきめ細やかな対応がありました。私の大学でも障害を持った学生もたくさんいるので、そういう子のためにも大学の防災教育に活かしていきたいと考えています。

東日本大震災では、千葉に住む両親が被災しました。私は3月13日に新幹線に乗り、千葉に2週間ほど滞在しました。幸いにも家が壊れなかったので家で生活をしていましたが、大きな余震が何度も来ました。余震はいつ来るか分かりません。夜中寝ていようと、トイレで大きいものをしてようが構わず来るので、逃げ出す準備が経験値として高まっています。

それと、夜寝ている時に避難経路を確保しておくことが大事です。だんだん家が傾いて扉が開けづらくなってきているので、扉の近くに寝て、もしもの時に扉をあける人を確保しておくことが必要かなと思います。私の経験からの報告でした。

本田

ありがとうございます。来年は扉の近くを、榎澤さんをお願いします。

## 大学での 防災教育にも



森下（老松町）

母が足が悪く車いすに乗っているのですが、階段からどう降ろすか？車いすの方が怖がらない降ろし方の訓練も必要かなと思いました。

阪神淡路大震災や東日本大震災に遭われた方のお話が聞ければ、参考になると思うので、よろしくをお願いします。

本田

2回目の避難所体験で、阪神淡路大震災を被災された神戸の方にお越しいただいたので、報告書を読んでみてください。

最後に、先ほどの豊橋市の帰宅困難者の質問も含めて、講評者の方、お願いします。



松井

体験から繰り返し学ぶことで精度が高くなり、大学・高校関係者や神戸市からの参加者が集まるなど、外部への発信力も強くなったと思います。ラジオドラマも個々の障害特性がうまく引き出されており、私たちも参考にしなければならないと思いました。

一方で、訓練では参加者が「お互い様」という気持ちが強くて意外と許していけるが、はたして実際にはどうなのかということは今後の課題だと思います。

話は変わりますが、参加者のみなさんは「非常持ち出し袋」を用意していますか？半分ぐらいの方の手が拳がりましたね。

社協では、事業部門ごとのケアマネージャー等が1000人余りの援助者に対して個別の災害時援助計画を作っています。大したものではありませんが、避難所はどこなのか、津波警戒区域の方はどこに逃げるのか、備蓄品を持っているか、家族との連絡はどうするのか等、調査・把握しています。例えば、ブレーカーの位置等を知らない人は結構多いです。非常持ち出し袋を用意している人も意外と少ないです。また、薬がいつもどこにあるのか把握したり、処方箋の写しを準備しておく等、そういうことをやっておかないとここへ逃げてこれません。避難所に辿り着けばある程度みんなにサポートしていただけると思いますが、来る前のことも準備していただければと思います。



**避難所へ  
行く前の準備は  
自分たちで！**



鈴木登

帰宅困難者については防災ガイドブックによると、駅前の穂の国とよはし芸術劇場プラット、子ども未来館ココニコの2か所が帰宅困難者受入施設になっています。

「自分のことは自分で」という気持ちで、食料も備えていただくことが必要です。私は今、形状食が食べられません。高齢者の方をご存知だと思いますが、ラコール、エンシュア等で栄養を取っている状態で、いざという時のために買い置きをしています。

今回私も参加して、この訓練を継続していただくこと、地域の訓練にそれぞれ参加して備えていただくことが一番大切だと思います。今後もこのような活動を続けていただき、防災力を高めていただきたいと思います。

**地域の訓練に  
参加しよう**





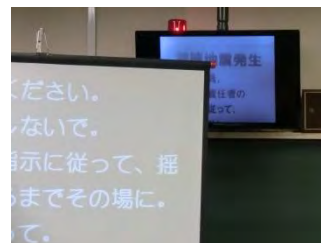
大野

帰宅困難者の話ですが、とよはし芸術劇場プラット南側に防災広場を設けておりまして、備蓄倉庫や簡易トイレ等を設置する予定です。災害は地震だけでなく大雨やスーパー台風などもあります。大雨・台風はある程度の事前情報がありますね。地震は冬の寒い時期や深夜など、いつ来るか分かりませんし、自宅にいるかどうかも分かりません。職場、学校、電車、エレベーターなど、いろいろの場所での被災が考えられます。私の家族も仕事や学校に行っていますが、みなさんも家族に「何か起きたらここにいるよ」とか、そういう話合いの場を持っていただけるといいと思います。今日はありがとうございました。

家族との  
待ち合わせ場所  
を決めておこう

山下

昨日の訓練の時に放送が小さかったという話をしましたが、その後部屋に戻ったら部屋のボリュームがオフになっていました。放送は廊下から聞こえていたんですね。会議などでオフにしてしまったと思いますが、部屋の利用の時には放送のスイッチも点検する癖をつけていただきたいと思います。



本田

はい。放送のボリュームは点検時に最大にすることになっているんですが、直前の点検が手落ちだったということです。残念でしたが、職員もこれを教訓として、今後しっかり日々の管理業務をしていきたいと思っています。みなさん長い間ありがとうございました。

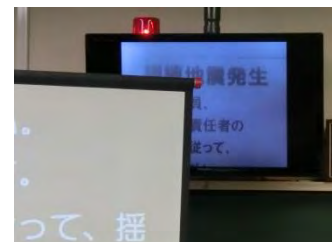


①おはなし・避難訓練

- 携帯で薬や保険証の写真を撮る方法はよいと思う。
- 障害者にとっては、一人で避難所に行くのは困難。  
各避難所で障害者の受け入れ対応を考える必要がある。
- 自分の地域の避難の仕方などの確認が必要。
- 障害種別によりどのような事が不便なのかが分かった。  
みんなで助け合うことが必要なのが分かった。
- 周囲の気遣いが必要。
- 非常階段からの誘導ブロック（点字ブロック）があるとよいと思った。
- 赤いパトライトを廊下やトイレ等にもつけてほしい。
- ラジオドラマを聞いて、できること・想定できることを考えたいです。
- スロープがあるとよいと思う。
- 足が悪いので階段が困った。
- 夜の避難行動が困り、恐怖感がある。
- 防災ラジオドラマがよかったです。他の障害のことも理解できた。
- 泊る予定で荷物を多く持ってきました。
- 避難するときもこんな感じになるのかなと思いました。
- 知らない人同士で、避難体験をできて良かった。



障害種別ごとの  
不便さを知る

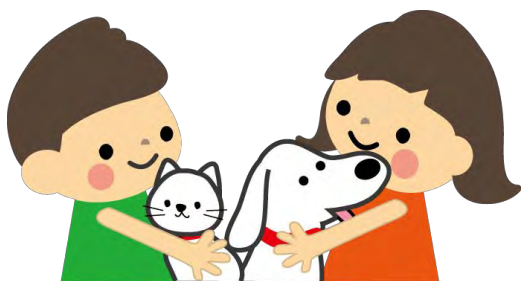


- 避難行動する際の安全確認、安全確保が重要と感じた。  
(防災頭巾をかぶる等)
- 最後の方の避難の伝達を大きな声でしたかった。
- 非常階段の手すりが両サイドにほしい。障害によっては、避難に支障がある。



※ 事務所から

避難訓練では公園に避難したので、アンケートにゆっくり記入している時間が無かった中、協力いただきありがとうございました。今回ペットをどうするかの調査をしたところ、25人の方が飼っていると回答されました。障害者もペットと一緒にいる人が多いようです。



## ②防災レクリエーション

- 防災グッズが色々あってよかった。自分でも用意できるものがあるようなので工夫したいと思います。
- 防災レクリエーションは、楽しかった。自分のグループはカードが6つ揃わなかったので、残念だった。
- 具体的で分かりやすかったです。意識が高まりました。
- 防災グッズの作り方の講習会をしてほしいです。
- 防災グッズの手作り品や新製品の情報と実物がとても良かったです。昔の人が工夫して、水害から身を守ったという話も聞いて良かったです。
- 遊びながら防災の事を考えることができました。役立つ知恵袋では、身の回りにある安い品で作れることに感動しました。昔の方の知恵も大変参考になりました。気仙沼の高校生にお話を聞きに行った時、高い所へ逃げるのと、2週間分の食糧を常に置いておくことの大切さを言っていた事を思い出しました。
- 聞いた時はあれこれ準備しようと思うが、しばらくすると忘れてしまう。
- 100均や家のあるもので、簡単に防災グッズが作れると初めて知り、とても勉強になりました。
- 楽しみながら学ぶことができ、非常に良かったです。
- 障害者の意見を書くことは中々できないので、聞くことができるととても良かったです。
- 今回は学校の部活の取材で参加させていただいたのですが、ラジオドラマや手話、簡易ベッドの事等とても勉強になることばかりで、参加できて良かったと思いました。
- 多数の参加者で、良いアピールになりました。新製品にも興味を持ちました。



楽しく学ぶ!



- 防災グッズの話は、これまでいろいろ聞いたことがありましたがこんなに詳しくお聞きすることがなく大変勉強になりました。手作りの工夫や、アイデアも素晴らしいです。
- 新聞紙でスリッパを作るのが思ったより難しかった。エコで良い案だとおもいます。
- 体育館は、声がこもって（反響して）聞こえづらかった。
- 知恵袋は盛りだくさんでしたが、もう少し内容を絞っても良いかと思いました。展示パネルは、実際この体育館がどう使われるのだろうと想像するのに良い刺激でした。
- 新聞のスリッパは、職場や自治会の集まりで提案したいと思います。普段からできる防災グッズが色々あることが分かり、帰ってから自分のできることをやってみようと思います。
- いろいろな環境、障害者の方との接し方については、今後考えなければいけないと感じました。参加して対策したつもりにならないよう、1つでも多く家庭に取り入れようと思いました。
- 今後も、避難所体験のような地元での防災活動に積極的に参加していきたいと思います。
- 息子が寝たきりなので、参加できて良かったです。
- 子どもが重度心身障害なので、（子ども2人障害児）必要なものが沢山ある。旦那が居なくて、私が一人の時に何を持てるのか不安です。手作り防災グッズは、とてもためになりました。
- 災害時には浸水区域になるので、必要なものを持って逃げるのができない不安があります。また、地域避難所は自宅よりも低地にあります。自宅の2階に必要な物を置いておくこと、ボートを用意することなど助言をいただきました。家族と考えてみたいと思います。
- 大人が話を聞いている時、子どもが走り回っていた。子には子の世界がある。共存できるようにお互い分かりあいたい。



**自分の  
できることを  
やってみよう**

**家庭で  
取り入れよう**

**障害児を  
連れて  
どう逃げるか？**



### ③宿泊体験・非常食試食

- 「体育館で 1 泊した」という経験が、今後の備えの意識を高めてくれました。また朝食のハイゼックス米の量に驚きました。非常食でこれがあると心強いと感じました。
- 慣れない避難所での宿泊は、何もない状態であまり寝られない。災害時だと考えるともっと不安で、大変だと感じた。非常食も、今日はゆったりとおいしく食べられたが、災害時はもっと殺伐とした雰囲気になってしまうのかと感じた。そうならない工夫を自分でも考えていきたい。
- アルミのウォームシートを寝具に持ってきましたが、金属音が大きく、避難持ち出しには向いていないことに気づきました。音がストレスになる体験をしたことによって、家族に障害を持たれている方が避難所に行くのを辞めてしまう気持ちが分かりました。
- 夜明けに目が覚めたとき、明かり取りの天井の枠が目に入りました。あれって強化ガラス？プラスチック？余震で割れて落ちてくる危険性を考えて、①スペースに余裕があれば枠の真下を避けて寝る、②余裕がなければ、余震が来たら真下から避難し、壁際に身を寄せなくてはならないと思いました。
- 持参した寝袋で寝ましたが、意外と寝れました。枕の代わりになるものを工夫しました（空になった非常持ち出し袋に、脱いだ衣服とタオルを詰めたら丁度良い枕になりました。防災グッズの手作り紹介の講演が役に立ちました。）
- 深夜はものすごく静かでした。自分の持ち物袋にスーパーの買い物袋に入れたものがあったのですが、触るとシャカシャカ音がして響いたので、ビニール素材や布袋のような、音のしない入れ物を用意する工夫が必要だと分かりました。
- 市販の防災グッズセットの中にあつた笛は、プラスチック製で中の玉がビーズなので、昼間はカラカラと鈴代わりにもなります。これはいいなと思ったのですが、宿泊時はその音が逆に響いたので、夜は別の笛を使おうと思います。



アルミシートは音が大きい！

体育館天井のガラスは落ちてこないかな

スーパーの袋はシャカシャカ音がして夜響く



- 朝はトイレで着替えをしてしまいました。「すぐ終わるからいいだろう」と思いましたが、下着から全て着替えるのには時間がかかってしまいました。もし本当の災害の場合だと、トイレ待ちの人が出てくるんだと思ったら、やっぱり、着替えスペースで着替えた方が良策なんだと感じました。

トイレで  
着替えただけ…

- ベッド体験、硬くて痛かったけど眠れました。少し腰が痛むが大丈夫。試食は、自分の番号はなし。8割煮えぐらいで硬かったけど味噌汁が美味しくて中に入れて、味噌汁ご飯で流し込みました。

ダンボールベッド  
で寝ました

- 初参加の人が多と思った。回を重ねるうちに準備が整ってきている感じがした。宿泊体験は子ども達の騒ぎ声が気になったが、寒くなく寝れました。これからいつ災害になるか分からないから避難所体験を年2回ぐらいしてほしい。



- 避難所の様子はテレビで見ているが、自分が避難所で宿泊したのは初めてで、貴重な体験をした。実際には、避難者同士の交流、意思疎通があり何がしかのルールが発生していくのだろうと、そのような感じを受けました。

交流

- 非常食が美味しかったです！ありがとうございます。体育のマットがあんなに寝心地が良いのも初めて知りました。色々気づかされ大変勉強になりました。さくらピアの職員の皆さん、貴重な機会を与えて頂きありがとうございます。

ルール

- いびきが凄かったです。子どもたちが走り回っておりました。消灯後についていたランプが眩しかった。服用薬を忘れずに持ってくるのが重要だと思いました。

体育館の  
マットで寝ました

- 体験なので1泊だけですが、実際に被災したら毎日この生活が続くと思うと、とてもつらいと感じました。

いびきが…

- 参加者も増えてきて（特に一般の方）とてもうれしく思います。一度でも体験するといざという時に役立つでしょう。

- お米は、少し芯があるくらいでよいとありましたが、非常時にこれだけのごはんが食べられるとは驚きでした。



•初めての参加です。娘が宿泊体験というものを何回も体験する事によって、本当に避難所に行かなければならない時大丈夫でいられる様、参加させていただきました。実際には、避難するのに杖が必要な母と、知的障害の娘にとっては、自宅の方が良いのかなとも考えております。



•実際に泊まったり、非常食を食べる中での発見があったりして良かったです。多くの人に参加してほしいと思います。

•今回は、参加者が多くなったせいか、それなりの音がいろいろあり、寝つきが悪く寝不足でした。朝食の準備は、学生さんや一般の方が積極的に参加をしてくださったので、とても楽しく作ることができました。昨夜の下準備のおかげでとても早く作ることが出来ました。



•体育館での就寝の大変さを、一部でしようが味わうことができました。真っ暗にできない中、ちょうど照明の下で明るくて夜10時30分に移動しましたが、実際移動もできないスペースだったらと思うと場所をめぐってのいろいろなやりとりが必要になるだろうなと感じました。



•今回は障害者の方たちとの経験でしたが、健常者の人たちとの避難所生活は、すごく大変だろうなと思った（子どもが奇声をあげたり夜中寝つけなくて動いてしまったり）。非常食は美味しかったです。

•いたれりつくせりの体験でした。夜10時近くになっての参加でしたので、皆が準備してくれた後だったと思います。本当に災害があった時は、かなり状況は違ってくるのか？でもその中に事前体験している人がいれば、混乱は避けられるかな。7年目だからスムーズに進んでいるのでしょうね。



•体育館では、子ども同士が走り回っていました。母としては嬉しいことで、避難所体験を楽しく体験できました。ロビーで談話ができただのも有意義でした。





- とても良い体験ができました。2回目で前回よりも寝られるようになりました。娘が発達障害で、他の方と食事ができないのが問題です。
- 不自由さから逃げたり、不自由さを恐れている場合ではない。この体験よりさらに大きい災害に向かって良い訓練になるかもしれない。
- 宿泊は今回65人だったので、ゆったりしているが、本当に災害が起きたら、体育館中めいっぱい人が横たわって過ごしくくなると思った。今日はトイレや水が使えたが、ストップしたらかなり混乱すると思う。知らない人とも話ができたが、実際自分から話しかけられなかったり、苦手な人がいたりすると、それが毎日だと大変だと思った。感染症の対策はどうなるのかと思った。別の部屋を用意して対応するとか？体育館では、一気に感染してしまう。
- ある程度準備もして参加しましたが、プライベートな空間が無い所で宿泊するのはとても疲れしました。



トイレが心配…

※ 事務所から

体育館で使う座布団を干したり拭いたり、いろいろな準備をご近所の方に手伝っていただきました。聴覚障害の床屋さんボランティアも3年目になります。ご協力ありがとうございます。

宿泊での小さな失敗、トラブル、不便さ、発見は、次に備えるための糧になると思います。宿泊参加の皆さんのアンケートの一行一行に企画者として感謝とするとともに、今回の経験をそれぞれの団体や地域で活かされることを切に願っています。



たくさんみなさまに  
避難所体験開催にご協力していただきました。  
本当にありがとうございました！

## ■考 察■

さくらピア事務長  
本田栄子

### ◆昨年からの経過◆

昨年の夜の企画で作った、防災ラジオドラマはコンテストで最優秀賞をいただき、3月14日に仙台で開かれた「第3回国連防災世界会議」のパブリックフォーラム「第5回防災コンテスト表彰式」で発表した。

新聞報道等により、豊橋市がシナリオを音声化してCDを作成、危機管理課を中心に今後の活用が具現化されつつある。広報FMとよはして放送され(8月21, 28日)、NHKのTVでとりあげられた(9月7日ほっとイブニング)。その結果、市内外の研究者や防災活動実践者からの問い合わせや参加申し込みがあった。



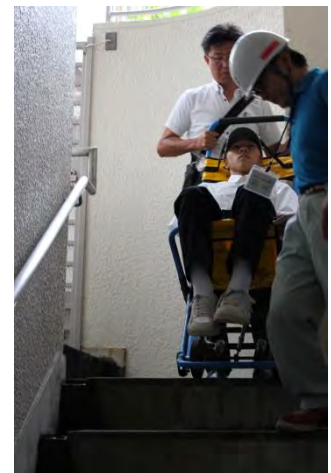
### ◆ラジオドラマ障害者が避難所に来たら◆

まず、みんなでCDをきいた。豊橋ふるさと大使の平田満氏にナレーションを担当し市民劇団の人が演じてくれた作品は、シナリオの内容がとてもわかりやすく表現されていて、この日はじめて聞いた人も多く好評だった。

作ったときの気持ちを其々の障害当事者や家族に聞いていった。聴覚障害者が登場するシナリオは音声化できなかったので、防災に関わる手話をいくつか聴覚障害者に指導していただいた。

### ◆避難訓練◆

火災発生放送と3階から桜ヶ丘公園へ避難し、初期消火訓練をした。避難時のイーバックチェア(階段降器具)と視覚障害者誘導に市職員が担当した。放送が小さかったので(後の確認で音量がOメモリになっていた)とっさに「グループで来た人はメンバーの安全を確認してください」「両隣や前後の人の様子を見て助けあってください」と声をかけた。今回は事務所の訓練時には事務長不在の想定で、3階の部屋の様子を観察しながら動くこととした。大会議室で多人数の会議等を開催している場合、どんな言葉がわかりやすく声かけに効果的か、平時に考えておくと良いと思う。



### ◆展示◆

防災の展示は、愛知県防災訓練の啓発ブースに展示予定だった過去3年間の訓練の様子をロビーに掲示。体育館には防災VCの会の防災グッズ、ダンボールベッド、防災テント、エコボード間仕切り、ダンボールトイレ、簡易車いすトイレを展示した。直前のNHK放送もロビーで見られるように案内しておいた。ラジオドラマのCDも自由に聞けるようにした。

### ◆防災ゲーム◆

インターネットで見つけた防災じゃんけんゲームは、レクの世界では有名なすき焼きじゃんけんを応用したもの。レクレーションボランティアグループのわたぼうしに相談したところ、ゲーム材料も手作りで作成してくれた。グループごとのじゃんけんの合図の掛け声を旗を使ってまたそれに鈴を付けるなどして視覚。聴覚の障害者にも配慮してゲームをすすめた。大人から子どもまで楽しみながら非常持ち出し袋の中身を学習することができた。



### ◆新聞紙のスリッパづくり◆

さくらピアで活動している折り紙グループ花菖蒲のメンバーに指導をお願いした。新聞紙という身近な材料でのクラフトで、親しみやすく取り組むことができた。子どもでも参加しやすい企画だった。

### ◆大災害その時役立つ知恵袋◆

災害VCの尾崎公枝氏の防災グッズの紹介。毎年好評で新しい情報も各地から紹介していただいている。今年重度障害の子どものお母さんから「子どもが歩けないので、グッズを持って行けないがどうしたらいいか」という切実な質問があった。河川氾濫等が懸念される地域の方は他の人より早く避難するように心掛ける。車の中に置いておくなどのアドバイスがあったが、根本的な解決ではない。不安な中でも一つでも二つでも備えることができればいいと思う



### ◆体育館宿泊体験◆

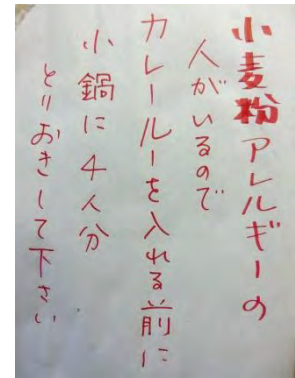
今年は過去最高の71名の参加があった。重度心身障害の児童4家族16名。愛知大学教員、学生、神戸市保健局、目的意識を持った人の参加が目立った。「眠れなかった」というとらえ方ではなく「隙間時間にぐっぐと寝る、少し眠れた」という気持ちを持つといいという神戸の方の発言があったように、雑然とした中でも体調管理ができる工夫が必要。公共施設の宿泊訓練は、指定管理者だからこそできる内容。なので、今後も続けたい。宿泊者の受付は市の避難所要員が担当した。訓練なのでマナーの良い参加者がほとんどで大きな混乱はなかった。



### ◆朝食◆

今年は市からはアルファ米の供給がなかったので、ハイゼックス袋にお米をいれて湯煎する方法で作った。事前に水分量など何度も実験したのだが、実験時の比べて鍋の中に入れる個数が多くて水温が下がったためか、少し芯があったりムラができてしまったのが残念だった。準備や片づけは大学生が積極的に担当してくれたので働き手が多く助かった。

アレルギーのある人のために具材を貼りだしておいた。



### ◆まとめと講評◆

55人の参加者があり、それぞれの立場で発表した。

要支援者受入協定締結施設が31か所に増えたこと、社会福祉協議会では独自の備蓄があること、重度障害者の切実な現状等、参加者の感想とともに講評者から、助言をいただいた。

ひとり一人が実践の中から具体的に学び、自分の周囲への応用を視野に入れた感想が多く「さくらピアではなく地域にいったときどうなるか？」ということ意識した発言が多く聞かれ、有意義な時間になった。



### ◆課題と今後に向けて◆

昨年の防災ラジオドラマ最優秀賞受賞は新聞やテレビで報道され市が音声化して実際に活用していく教材として準備ができた。一過性のニュースで終わらないように今回の体験の学びと共に、さらに具体的な課題を挙げておく。

### ★記録すること

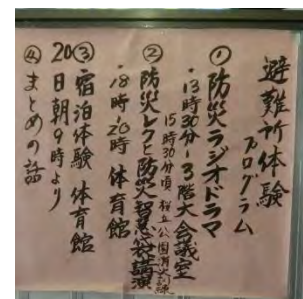
多方面からの問い合わせや取材時に写真や報告書がとても効果的だった。HPの充実も含めて 発信を考慮した記録を今後も続ける

### ★初心をわすれないこと

はじめて参加した人から「慣れている人に気後れしてしまう」旨の意見があった。企画者や役員は回を重ねるが 初参加の人を置き去りにしない配慮も大事

### ★展示について

煙体験ハウスの借用について、中消防署より「土日の行事は職員の配置が難しい」との指摘があり今回は展示を遠慮した。他の防災啓発備品の貸し出し案内等を勉強して、協力者を新しく開拓する。毎年初参加の人が3割以上いるので 定番ものも精査しながら続けていく。



### ★体育館での宿泊時に明確な役割を

ドアの近く、灯りの近く等で就寝する役の人を決めた方が良い。

### ★親子参加を視野に入れて

参加者募集のチラシに親子の姿の写真がある。就寝前の企画がこどもも参加できて好評だったので親子参加も考慮するとよい。

### ★行政との連携をしっかりと

今年は事前に避難所要員に合いカギの使い方など説明できた。今後、指定管理の範囲外の業務の分担等について整理する。

### ★配給ルートはどうなっているか

訓練実施後に上下水道局から給水車で十水タンクへの補給方法の下見の連絡があった。(10月2日に実施)。地下の自家発電設備のガソリンの調達の準備や確認もしていただきたい。

### ★備蓄品は数について

避難受け入れ人数219に対し 水、食料は120人分である。社協は独自備蓄でヘルパーや職員の動きに備えているが、さくらピアには無い。

### ★記入用紙も分かりやすく

指定避難所に行けない障害者が地域の避難所に在宅を届け出る用紙、方法が整理されているか？

### ★館内の安全点検をもう一度

モニターテレビが新しくなったのはいいが、パトライトが後ろで光が分かりづらいとの指摘

### ★避難所運営の構成メンバー

今回、大学生や高校生の働き手がいて、運営がスムーズにできた点を考えると 福祉避難所に障害者だけでなく、家族、ボランティア、学生等も一緒に生活できるようにしないと弱者だけでは運営は成り立たない。

### ★シナリオのマンガ化

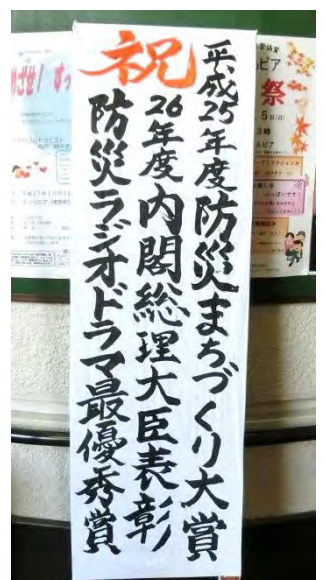
音声に出来なかったラジオドラマ聴覚障害者編も含めてマンガ化し、若い人への啓発教材をつくりたい。

### ★全国への発信を継続する

防災科学技術研究所に昨年の受賞の成果報告をする。

### ◆終わりに◆

今年の避難所訓練企画準備中に鬼怒川、東北豪雨災害があり、その後も各地で自然災害が起きた。被災者に深くお見舞い申し上げますとともに、一層気を引き締めて日常管理業務の中に有事の備えをとりいれていくことにしたい。



## 豊橋・さくらピア制作の脚本

# 防災コン最優秀賞

ラジオドラマ部門で「避難所体験の素直な発想形に」

独立行政法人・防災科学技術研究所が主催する「防災コンテスト」の防災ラジオドラマ部門で、豊橋市障害者福祉会館さくらピア（東新町）が制作した脚本「障害者が避難所に来た」が、最優秀賞を受賞した。さくらピアは、昨年に実施した避難所体験の際に脚本を書き上げてコンテストに応募していた。本田栄子事務長は「参加者の素直な発想が形になった」と受賞の感想を語った。

同部門には、全国の36団体が作品を出品した。さくらピアは視覚や聴覚障害者などを含む市民が、災害時に避難所を訪

の「防災まちづくり大賞」の総務大臣賞や「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞している。

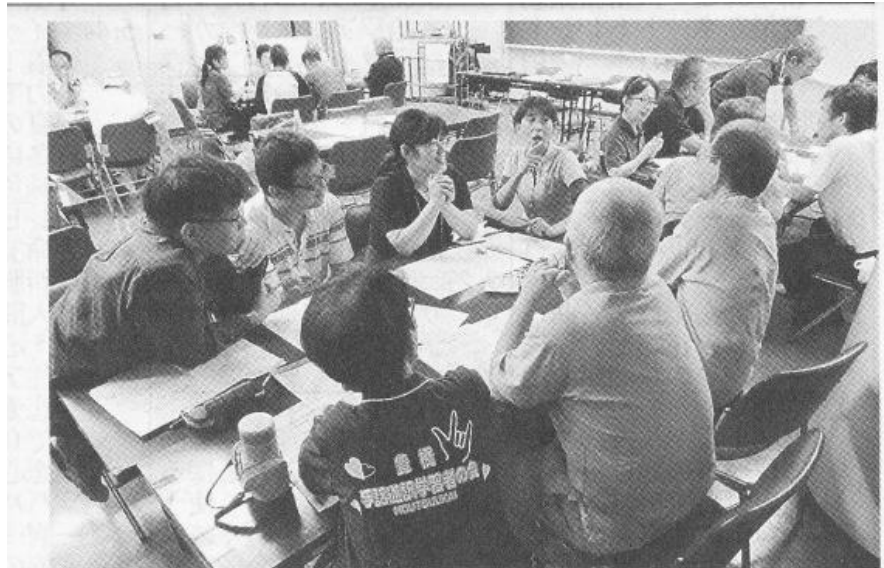
れた際の行動や会話を想定した脚本7本を制作。計61人の市民が7グループに分かれ、避難所での対応に困る地域住民や、身動きが取れない障害者のようすを記した。

昨年9月に実施した避難所体験では、新たな取り組みとして参加者が意見の出しやすい脚本づくり挑戦した。脚本は、さくらピアのホームページでの閲覧が可能。本田事務長は「各団体が行う防災研修に、脚本を役立ててほしい」と、地域に良い影響が及ぶことに期待を寄せる。

ドラマは、大地震発生や避難所に地域住民が集うことのみを設定。障害者や住民が意見を交わし

民が意見を交わし

（佐々木雄紫）



意見を交わしながら脚本を書き上げる参加者（昨年9月の避難所体験にて・さくらピア提供）

ながら書いた脚本は、各自の立場に置き換えた人物が登場する。災害時に求められる心づかいや配慮、障害者が避難所で困らない設備などの必要性を問う内容となっている。

さくらピアは、2009年から避難所体験を実施。消防庁

平成 27 年  
2 月 11 日  
東日新聞

# 防災ラジオドラマ 最優秀

豊橋市障害者福祉会館さくらピアが企画し、障害者や地域住民らでつくったラジオドラマ脚本「障がい者が避難所にきたら」が、独立行政法人・防災科学技術研究所の防災ラジオドラマコンテストで最優秀賞に輝いた。三月十四日に仙台市で開かれる国連防災世界会議で表彰される。  
(小椋田紀子)

障害者一人一人が主体的に防災に取り組めるようを実施。地域住民らも参加し、東日本大震災に加え、夜間防災訓練や体験の二〇〇九年から一育館での宿泊体験を続け

## 豊橋、避難所の障害者描いた脚本



障害者が避難所を訪れる場面を想像し、脚本をつくる参加者＝豊橋市で

ている。一四年には防災功労者内閣総理大臣賞を受賞した。

さくらピア事務長の本田栄子さんは「東日本大震災で障害者が死亡した確率は、一般の人の倍。普段から様子を知っていた避難所では、部屋を分けるなどの配慮でトラブルを防げた例もあるし、障害によっては炊事や介助などで協力できた。地域も当事者も、ともに意識を高める必要がある」と語る。

活動を発信するため、昨年九月の避難所体験でラジオドラマづくりを企画。身体、視覚、聴覚、知的の各障害がある人たちや家族、行政職員やボランティアら約六十人が参加。未明に震度6の地震が起きたと想定し、障害別の七班に分かれて話し合い、一時間かけて七場面を脚本にまとめた。

身体障害者が高齢の母親のトイレ介助を手伝ってくれる人を探すシーンや、視覚障害者が停電の中、手のひらに文字ずつ書いて意思を伝えるシーン、知的障害のある男性が恐怖でパニックになるシーンなど、当事者ならではの視点のほか、障害者への配慮にいらつく住民、視覚障害者の誘導を申し出る子どもなど、実際に起きそうな出来事も盛り込まれている。聴覚障害者のいる班はあえて「筆談」で物語が進む。

本田さんは「防災訓練や祭りなど地域との交流の機会も遠慮してしまっ

障害者が多い。脚本をきっかけにまずは誘ってくれる住民を増やせたら」と話す。

脚本の自主防災会の研修での活用やラジオ放送を望んでいる。さくらピアやホームページで閲覧できる。

さくらピアは三月十一日午後一時から、「3・11を忘れない集い」で防災ずきん作り講座を開く。定員三十人、材料費三百円。☎0532

(53) 3153、フアク

ス0532(53) 320

0

平成 27 年 2 月 27 日  
中日新聞

## 防災ラジオドラマ

# 脚本部門で最優秀賞

## 豊橋・さくらピア 「避難所体験」 障害者らシナリオ制作

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」が昨年9月に行った「避難所体験」で、障害当事者や近隣住民らが一緒に制作した防災ラジオドラマのシナリオ「障がい者が避難所に来たら」が、防災科学技術研究所主催の防災コンテスト「防災ラジオドラマコンテスト」脚本部門で最優秀賞に輝いた。今月14日に仙台市で開かれる国連防災世界会議の関連イベントで表彰される。

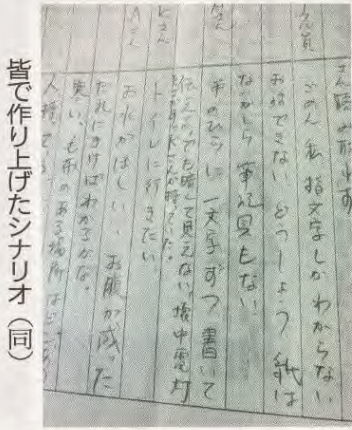
(田中博子)



シナリオづくりに取り組む避難訓練体験参加者—さくらピアで(同館提供)

「さくらピア」では毎年、「避難所体験」を実施。福祉避難所である同館で障害当事者や家族、行政・福祉関係者、近隣住民らが避難訓練や宿泊体験などを行い、避難生活を検証するも

ので、「第18回防災まちづくり大賞総務大臣賞」「防災功労者内閣総理大臣表彰」も受けている。毎回、多彩な取り組みに挑戦している



皆で作上げたシナリオ(同)

が、シナリオ制作は初の試み。午前2時、豊橋に震度6の大地震が発生し、ライフラインがストップしたとの想定で、参加者61人が身体、聴覚、知的、視覚、車イス利用など、障害別の7班に分かれ、避難所に地域住民が集まる場面を描写した。当事者の立場から起こるかもしれない問題点や会話を想像し、1時間かけてそれぞれ1場面を書き上げた。

「活発に意見を交わし、皆熱心に取り組んだ。中身は未熟だが、当事者目線のリアリティーのあるところが評価されたのでは」と本田栄子・同館事務長。シナリオを書いたことで、当事者が起こりうる問題を想定できたことは、今後の心構えにもつながるのでは」とも話す。

シナリオは同館HPに掲載されている。「ぜひ、防災研修などに役立ててほしい」と、本田事務長は活用を呼び掛ける。

平成 27 年 3 月 7 日  
東愛知新聞



# 障害者の避難 リアルに描く

## ラジオ脚本 最優秀賞

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」同市東新町Ⅱが制作したラジオドラマの脚本「障がい者が避難所きたら」が、独立行政法人防災科学技術研究所の防災コンテストの防災ラジオドラマ部門で最優秀賞に選ばれた。昨年9月の「避難所体験」に参加した障害者や地域住民らが力を合わせて執筆した。仙台市で14日始まった国連防災世界会議の関連行事で表彰された。

### 豊橋の福祉会館と住民ら



脚本づくりをする「避難所体験」の参加者  
豊橋市東新町、さくらピア提供

同会館は、災害時に障害者や高齢者を受け入れる福祉避難所に指定されており、2009年から毎年9月、障害者や地域住民らを対象に避難所体験を開いている。体育館での宿泊や夜の避難訓練、講演会などを通して障害者自身が防災意識を高めている。その活動が評価され、昨年は「防災まちづくり大賞」の総務大臣賞を受賞した。

ラジオドラマの脚本づくりは、昨年9月の宿泊体験に参加した10、80代の61人が七つの班に分かれて取り組んだ。

未明に震度6の地震が発生したと想定。身体や聴覚、視覚、知的能力などに障害がある人やその家族、介護者、地域住民が一緒にテーブルにつき、「避難所における災害時要配慮者への配慮」をテーマに意見を交わし、一時避難所の受け付けを舞台にしたシナリオをまとめた。

体の不自由な人が高齢の母親のトイレを心配し、避難所で介助者を探す場面、

聴覚障害者が暗い場所で手のひらに文字を書いて会話をしている場面、車椅子の人が避難所に姿を見せないことを心配して探しに行く場面など。当事者ならではの視点に加え、障害者への配慮に不満を漏らす住民や視覚障害者の誘導を申し出る子どもの姿など、避難所に障害者が集まったらどうなるのかをリアルに描いた。

防災コンテストは今回で5回目。「e防災マップ部門」に77団体、「防災ラジオドラマ部門」に36団体が応募し、それぞれで最優秀賞が贈られる。

さくらピア事務長の本田栄子さんは「災害時には避難所に集うすべての人が障害者と関わる可能性がある」と、周囲の協力と援助が欠かせない」といい、「このドラマを通して障害を持つ人・持たない人、支援する人・される人の相互交流が実現した。地域の障害者を地域の避難所に受け入れることができる社会の実現を願いたい」と話す。

脚本は、自主防災会の研修での利用やラジオでの放送などを目指している。さくらピアやホームページでも閲覧できる。(松永佳伸)

平成 27 年 3 月 15 日  
朝日新聞

# 災害時 障害者の避難テーマ

# ラジオドラマ制作

## きょうと28日 エフエム豊橋で放送

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」が制作した防災ラジオドラマの脚本「障がい者が避難所に来たら」をもとにしたラジオドラマを豊橋市が制作した。9月1日の「防災の日」を前に、コミュニティFM「エフエム豊橋」で21日と28日に放送される。

**種類ごと5パターン／ナレーションは平田満さん担当**

「障がい者が避難所に来たら」は、昨年9月の「避難所体験」に参加した障害者や地域住民らが協力して執筆。独立行政法人防災科学技術研究所の防災コンテストで脚本をもとに市が

ラジオドラマを制作。障害の種類ごとに5パターンがあり、同市出身の俳優で豊橋ふるさと大使の平田満さんがナレーションを担当し、豊橋文化振興財団主催の市民劇に参加した市民などが出演した。

ラジオドラマはエフエム豊橋で21日と28日の、ともに午前7時45分▽午後0時30分▽午後5時44分1分から放送する市の広報番組の中で流れる。

市はラジオドラマを、避難所要員を対象にした研修会や各地域での防災講習会などで活用していく方針。制作を担当した市文化課の牧野哲也主幹は「災害時にも、障害者への思いやりを大切にしてほしい」と呼びかけて



ラジオドラマの収録風景（豊橋市提供）

い。 (中嶋真吾)

平成 27 年 8 月 21 日  
東日新聞

# 反復訓練が「その時に生きる」

行政など関係者  
や地域住民参加

「避難所体験」始まる

豊橋・さくらピア

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で19日、毎年恒例の「避難所体験」が始まった。福祉避難所である同館で障害当事者や家族、行政・福祉関係者、近隣住民らが一昼夜過ごし、避難生活を検証する試みで、今年で7回目。同館指定管理者の「豊橋障害者（児）団体連合協議会」（山下徹会長）主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援。障害当事者が主体となった継続的な防災啓

平成 27 年  
9 月 20 日  
東愛知新聞

発事業への取り組みが評価され、「第18回防災まちづくり大賞総務大臣賞」「防災功労者内閣総理大臣表彰」なども受賞している。今年は例年以上に参加者が多く、延べ約300人が参加、宿泊体験も昨年の倍近い65人以上が申し込んだ。初日は、昨年の同体験で参加者が制作し、防災科学技術研究所主催の「防災ラジオドラマコンテスト」脚本部門で最優秀賞に輝いた防災ラジオドラマについて

語り合ったり、防災手話体験を行ったほか、訓練放送に伴い同館前の公園に避難し、園内で初期消火訓練を実施した。夜には防災レクリエーションなどで楽しみながら知識を深め、体育館に宿泊。翌20日には講評を行う。

「訓練を繰り返すことが、いざとなった時に役立つと思う」と山下会長。さくらピアの本田栄子事務長も「皆で実際に語り合い、訓練を行う中で個々の防災意識を高めてもらいたい」と話していた。（田中博子）



避難訓練を行う参加者＝さくらピアで

# 災害に備え防災意識向上

豊橋

## さくらピアで避難所体験

豊橋市障害者福祉会館さくらピアは19日、同会館で「避難所体験」を行った。地震などの災害を想定し、体育館に寝泊まりする宿泊体験や避難訓練などを行い、参加者の防災意識を高めた。

昼の避難訓練には約100人が参加。3階の会議室か

ら会館前の公園に移動し、消火訓練も実施した。夜間には約

60人が体育館に泊まり、災害時の避難環境を体験した。

避難所体験は毎年開き、7回目。年々参加者が増加しており、今年は県外からの申し込みもあった。

夜間には防災ゲームを開くなど、楽しみながら防災知識を深める取り組みも行った。同会館の本田栄子事務長は「自身や家族を守るため、災害に備える意識を高めてほしい」と話した。(佐々木雄紫

同会館は、災害時に起こり得る被災環境を想定したプログラムを企画。避難訓練は夜間にも行って日中とは異なる注意点を周知した。宿泊環境も必要以上に整えずに実施。参加者

の生活環境や障害の度合いにより、必要な物資や支援方法を認識してもらい、自助意識を高める目的で開催している。



会館から避難する参加者(さくらピア)

平成 27 年 9 月 20 日  
東日新聞

豊橋 障害者や家族らが避難所体験

災害時、地域の避難所に身を寄せるのは健常者だけではない。何らかの補助が必要な障害者や高齢者、妊婦や幼い子ども連れらも避難する。障害者の目線で避難生活はどう映るのか。豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」で9月下旬、豪雨や大規模な地震を想定した1泊2日の「避難所体験」があった。(相沢紀衣)

弱者の不安 知って

災前の策 三河



避難訓練の様子。視覚障害者らの誘導にはタオルを使っている。豊橋市障害者福祉会館で

- ★障害者の避難☆
- ①近くに困っている障害者や家族はいないか、健常者は目を配るべし
  - ②避難所では誰もが、自分より大変な人のことを考えよ
  - ③地域の防災訓練には近所の障害者を誘うべし
  - ④完璧なバリアフリーなんてない。とりあえず訓練に参加すべし
  - ⑤障害者が暮らせる避難所は、みんなにとっても居心地がよい

つえを手にした人や車いすの女性、目が不自由な男性、知的障害がある人、小さな子連れの女性…。二百人強が訓練に参加した。さくらピアは、障害者が主体的に防災に取り組めるようにと、二〇〇九年から年一回、一泊二日の避難所体験を続ける。

まず、さくらピアが脚本を担当したラジオドラマ「障がい者が避難所にきたら」が放送された。震度6の地震が発生し、身体や視覚、知能に障害がある人々が地域の避難所で、課題に直面するストーリー。「みんな大変なのに、障害者だけ」が放された。震度6の地震が発生し、身体や視覚、知能に障害がある人々が地域の避難所で、課題に直面するストーリー。「みんな大変なのに、障害者だけ」が放された。

午後三時ごろ、「地震が起きた」と放送が入った。三階の大会議室から、避難先はすぐ目の前にある公園。エレベーターを使う車いすの人以外は、地下駐車場に階段で下り、道路を挟んだ公園に向かう。

すぐに会議室から出て行くこととする人もいたが、さくらピア事務長の本田栄子さん(五七)は「私が下の階の

足は渋滞に。この階段は無理だよ、怖いよ」と話す男性を、周りの人が励ましながらゆっくりと下る。

健常者なら二分足らずで到着する公園に全員たどり着いたのは十分四十秒後だった。

■防災グッズ

夕方、ゲームを通じて必要な防災グッズを学んだり新聞でスリッパを作ったりした。重度の身体障害がある服部敬享君(六三)の母、和泉さん(四七)(豊橋市横須賀町)は「いざとなったら、合ってみてと呼び掛けた。

訓練に参加した障害者らの声

視覚障害がある柘植康守さん(53) 災害時は避難所まで手を引いてほしい。避難所では補助がないと移動できない

知的障害がある荒木啓暢さん(33) いつもと違う状況でパニックになる。一人で落ち着く部屋があれば助かる

車いす生活を送る女性 近くの小学校には段差があって入れない。1人では逃げられない

精神障害がある男性 薬は予備を含め、常に持ち歩いている。ただ周りの目が怖くて障害のことは話せないかもしれない

重度の身体障害児をもつ八木利加子さん(37) 5時間で交換が必要な酸素ボンベや流動食が不可欠だが、全てを抱えては逃げられない

■避難訓練

午後三時ごろ、「地震が起きた」と放送が入った。三階の大会議室から、避難先はすぐ目の前にある公園。エレベーターを使う車いすの人以外は、地下駐車場に階段で下り、道路を挟んだ公園に向かう。

すぐに会議室から出て行くこととする人もいたが、さくらピア事務長の本田栄子さん(五七)は「私が下の階の

■段ボールベッド

午後八時、再び避難訓練

を、夜食が配られた。それぞれが寝袋や寝具を持ち寄り、就寝。段ボールベッドを体験する人もいた。翌朝、参加者がそれぞれ感じた「気付き」を話し合った。

学生とともに参加した土屋葉・愛知大准教授(社会学)は「余裕がある健常者は段ボールベッドやマットを障害者に譲るなど、みんなで話し合い、避難所運営していく姿勢が大事だと感じた」と話した。

本田さんは「障害者向けの福祉避難所に入れるのは一部で、障害者も地域の避難所で過ごす。近所の人や、障害者を防災訓練に誘うことが第一歩。完璧なバリアフリーを目指す必要はない。お互いに不安を話し

「もし災害が起きて、最寄りの避難所には段差が多くて行けないから、家にいるかも」。車いすの女性はそう言った。そのまま誰も家にいることに気付かなかつたら、孤立して死んで



しまうのではないか。

豊橋市の市障害者福祉会館「KOHKAPIA」であった避難所体験取材した。参加した二百人の半数は、ダウン症や重度の身体障害、目の不自由な人たちだった。皆、避難時の不安を語った。



## 障害者の避難訓練に参加して

かつて、私は、避難訓練は指示に従って移動するだけ。何かあっても、避難所に行けば何とかなると気楽に考えていた。だが、さくらピアで障害者や家族の切実な声を聞き、訓練の重要性を初めて認識した。

東日本大震災で障害者が死亡した率は一般の人の倍という。さくらピア事務長の本田栄子さんは「サポートできない部分もあるだろうが、目を見て話したり、物を取ってきてあげたり、障害者のために立ち止まってくれたらそれでいい」と教えてくれた。できることから、始めてみよう。

(相沢紀衣)

平成 27 年 10 月 2 日  
中日新聞